

サッカーにおけるサイドからのクロスの精度が勝敗に及ぼす影響について

戸谷 宏 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 松田 保

キーワード：サイド、クロス、精度

1. 緒言

90年代のサッカーでは、ゴールから逆算し、余計な回り道をせずにシンプルな攻撃を組み立てるサッカーが主流で、オフENSIVEハーフの1.5列目と言われるポジションの選手にボールを預け攻撃をするという戦術のサッカーが主流だった。現代のサッカーは、スペイン代表がEURO2008、2010ワールドカップ、EURO2012の三大会連続優勝の偉業を達成し、世界でもポゼッションサッカーが主流となっている。

近年のサッカーではサイドアタッカーにキーマンとなる選手を置いている事が多い。ゴールを中心に守るため、中央よりサイドにスペースと時間が出ると思う。そこで、ゴール前にクロスを上げ味方選手に合わせて得点をするというプレーをよく見る。サイドからのクロスはゴールを奪うために有効な手段だと考える。そして、今世界ナンバーワンクラブと言われるバルセロナFCと大学のトップレベルの選手とでは大きく違いが出るのか、またどの様な違いがあるのかという疑問を抱き本研究に取り組むことにした。

2. 研究方法

びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部の2012年関西学生サッカーリーグでの前期11試合のVTR分析、リーガエスパニョーラのバルセロナ

FCのリーグでの試合11試合のVTR分析を行う。

3. 結果と考察

大学生もバルセロナFCも得点に至ったクロスは10本ある。11試合の中で10得点というのはとても多いと言える。特にバルセロナFCはクロスの数は少ないが、数少ないクロス中で得点に至っているものが多い。この事からサイドからのクロスの精度が得点に及ぼす影響というのは、とても大きくサッカーの試合の中において大きなキーポイントの一つである。

本研究で出た結果を本学のサッカー部に還元し、少しでも役に立てばよいと考えている。

4. 今後の課題

本研究はサイドからのクロスについて焦点を当てて行ったものであり、クロスに対して合わせる側の選手のポジション取り、入るスピード、タイミングなどについては、より研究していく必要がある。クロスに対して合わせる側の改善を行うことで、より得点増加を期待できると考えられる。

[主な引用参考文献]

ファン・カルロス・クベイロ／レオノール・ガジャルド (2011年2月1日) グラウディオラのサッカー哲学 実業之日本社 PP86-95, PP142-151

岸本 淳佑 (2011) 現代サッカーにおける攻撃面でのサイドバックの重要性 PP1-2